

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400032		
法人名	有限会社 アーバン・エステート		
事業所名	グループホーム ごえくの里		
所在地	沖縄市 越来3丁目11番20号		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	令和6年 2月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790400032-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和5年 10月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者や職員はそれぞれを互いの家族のように想い助け合いながら生活しています。また、事業所内は家庭的な環境を目指しており、自分の家のように自分のペースで過ごす事ができるような施設となっています。調理の下ごしらえや洗濯物たたみ、食器洗い、食器片付け、塵箱づくり、植物の世話等の個々の持っている能力を活せる様に支援し互いに支えあい楽しく落ち着ける施設となっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ごえくの里」は、住宅街の中にあり、保育園の子どもたちがハロウィンに訪ねて来たり、地域の子供会でエイサーの披露があり、自治会の老人クラブとは敬老会を合同で行う等の交流が図られている。自治会館で開催されている認知症カフェに管理者や職員が参加している。看護師資格を持つ管理者を中心に昨年は看取りを行っている。家族へは、生前の利用者の思い出を話すことで、家族の喪失感に寄り添っている。職員間では看取りのふり返りを行い、事業所での看取りケアの充実について話し合っている。利用者の外出支援については、感染対策を取りながらドライブで花見を楽しんでいる。入浴は週3回で同性介助を基本としている。入浴剤を入れた足湯や童謡・民謡を流す等の支援をしている。着替えは、利用者が着たい服を選べるように職員は支援している。食事の提供は、副菜は同一建物内で調理しているが、食事は職員も利用者と一緒に摂っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで意見を出し合い作られた理念を意識し、入居者様の生活に活かせるように心がけている。また、いつでも理念を確認し共有できるよう目に付く階段口のドアに貼り出している。	理念は全職員で話し合い、「ひとりひとりが生きていく能力を最大限に活かし、穏やかに楽しく安心して過ごす」を掲げ、基本方針には「入居者の権利と尊厳を守る、笑顔で受け入れ、認め、寄り添う」こと等を方針として理念の実現に取り組んでいる。毎年、年度初めに管理者が理念について研修を実施している。理念は事業所入り口等に掲示するとともにミーティングでも共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大を受けて外部の訪問やイベントの参加ができなかったが去年より地域の子どもの会が皆さんが仮装エイサーを披露しに来てくれたりお盆にはエイサーを事業所前で行ってもらいそれをベランダや1階駐車場に降りて見たりしている。	自治会に加入し、自治会長は運営推進会議に委員として参加している。毎月、自治会館で開催される認知症カフェの行事に管理者と職員が参加をしている。今年度は地域の老人クラブと一緒に敬老会を実施している。90歳の女性が自家栽培の野菜やバナナを定期販売に来る時に一緒に話をしている。近隣の保育所とハロウィンの交流を持ち、地域の子供会の子どもたちがエイサー披露をする等交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症カフェに参加したり地域の方との井戸端会議の際に質問があればその都度答えるようにしている。また、いつでも介護や認知症についての質問があれば相談してくださいと伝えられている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為5月までは事業所職員のみで開催し、議事録をまとめ運営推進委員へ配布し意見をもらうように努めています。運営推進会議で案内のあった地域で開催される認知症カフェへの参加を勧められ参加するようにしている。	運営推進会議は1階の小規模多機能型事業所と合同で定期的開催されているが、5月までは書面開催となっている。外部委員には前回の議事録と開催月の報告を郵送している。委員の構成は利用者、家族、行政職員、地域包括支援センター職員、地域代表、知見者となっている。委員間の意見交換が書面で行われていることを議事録で確認できた。議事録は入り口にファイルにして自由に閲覧できるようになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、困っている事や段取り方法などの相談をさせて頂いています。コロナウイルス発生時の対応方法や連絡先、必要な支援の相談などさせてもらっています。また、安心登録もさせていただき協力体制をとれるようにしています。	運営推進会議に市職員が参加し、情報交換が行われている。研修案内等について市からメールや電話で連絡がある。コロナ発生時は、他の利用者への感染を防ぐための対策について市と連携を取りながら、クラスター発生を防ぐことができた。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い制度について理解し身体拘束をしないケアを心がけている。帰宅要求の強い入居者様へは声かけを工夫したり入居者様に役割を持たせることで「ここにいても良い」という安心感が持てるような支援を行えるようにしている。	身体拘束等の適正化のための指針が作成され、委員会も3か月に1回開催し、議事録も整備されている。年2回の研修も令和5年1月と7月に実施している。毎月身体拘束に関するチェック表でケアの確認を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ずれ落ちを繰り返す利用者について、ずれ落ち防止のためベッドからマットに布団を敷いて対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束について勉強会を行い制度について理解し身体拘束をしないケアを心がけている。また、職員同士でお互いのケア方法について話し合い虐待が見逃されないようにみんなで注意し、防止に努めている。	虐待防止に関する基本方針が作成され、職員へ周知されている。虐待防止検討委員会は身体拘束等適正化委員会と一緒に開催している。研修計画を作成し、「高齢者虐待とは、内容及び対応策を知る」について管理者が講師となり、昨年と今年内部研修を実施している。ケアで気になる場面がある場合は職員同士で注意し合い、管理者からは個別に指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強会で学び理解するように心がけている。また、成年後見人制度を活用している入居者様もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人や家族が不安にならないように十分に説明し、理解した上で契約できるようにしています。分からない内容がないか締結時に確認するようにしています。また、面会時にも不安な点がないか確認するように心がけています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に意見や苦情に関する連絡先を記載している他階段下に意見箱を設置し病院受診のお迎えの時や面会時に意見をもらえるようにしています。また、時々本人様と雑談の中から本人の希望なども聞き出す様な声かけを行っています。	運営に関する利用者の意見は普段の会話で聞くようにしている。七夕の短冊書きの願い事を聞き、昔、やんばるにドライブに行ったことがある利用者から、やんばるに行きたいとの要望があり、風景が似ている近くの海まで一緒に出かけている。家族からは、コロナ後遺症で食事がとれない利用者に自宅から食事を持ち込みたいとの相談があり、対応した例がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や年2回の自己評価の中や適宜の個別面談などで意見や提案を聞くようにしている。また、日々の業務の改善点についても意見を聞き適宜改善するようにしている。	職員意見は年2回の自己評価と個別面談の時に要望等を聞いている。農作業をさせてみたいと要望があり、ジャガイモの植え付けと一緒にやっている。個別面談で夜勤を増やしてほしい、または夜勤を減らしてほしいとの意見があり、なるべく要望に添うよう考慮している。今年度はアルコール噴霧器や掃除機の購入についても要望があり、購入している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の作成時に職員へは休みの希望を確認し入居者様の生活支援に支障のない範囲内で職員数を配置するようにしている。	法人で就業規則が整備されている。働き方改革関連法に基づく年5日間の年次有給休暇の取得義務化やハラスメント禁止についても明記され、ハラスメント防止規程が整備されている。年2回の健康診断、個別面談も年2回実施している。今年度から主任制度が導入されている。各種資格取得に関する助成や介護、育児に伴う短時間勤務等が整備され、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に勉強会や研修への参加を呼びかけ参加できるように勤務を調整し参加しやすい環境を提供している。また、ケアについて疑問があった場合はケア方法の説明やトレーニングを行い不安の解消に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染拡大を受けて連絡会への参加など難しい状況になっているが関連事業所と交流を図り情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には本人が不安な気持ち強い状態になっている事を理解し、本人が安心できるように本人の話に耳を傾けたりそばに寄り添ったりしている。また、言葉にできない感情も表情や行動から引き出せるように心がけています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点から家族等が困っている事、不安な事、要望をきちんと聞き入居後の生活状況はどのような支援ができるのかを説明し理解してもらえるように支援している。また、入居後も適宜状態を電話や面会時の挨拶時に要望や不安等を聞けるような声かけを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談の時点で困っていること、入居後の生活について説明した上で本人と家族がその時その時に必要としている支援について一緒に考え対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の役割を決め入居者様同士で助け合いながら生活できるように支援している。食器の片付けやお膳拭き、料理の下準備や植物の水かけ等を互いに助け合っています。また、自分のお部屋を忘れたり不安の強い入居者様に対して他の入居者様が寄り添ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診を御家族にお願いし本人の健康状態を把握してもらうとともに病院受診の後に一緒に食事に出かけたりしてもらい本人の気分転換に協力してもらっています。また、部屋に家族の写真や家族からの手紙を飾ることで絆を感じることができそうな環境を作っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた場所や人間関係を理解し、途切れないように日常の会話に取り入れたりして支援している。また、御家族へ協力を求めて自宅に少しの間帰れるように声かけしたりしています。	本人の馴染みの人や場との関係については、アセスメントで把握するとともに、日頃の会話から聴きとりしている。馴染みの美容室に定期的に出かける利用者がいる。お正月には友人に年賀状を出す利用者もいる。お盆で自宅に帰り、親戚の人と久しぶりに会うなど関係が途切れないよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し仲のいい入居者と近い席に配置したり入居者同士お話ができるようにソファを設置しくつろげる空間を作ったりしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護についての相談に応じる旨の声かけを行ったり必要な支援に繋がるように支援をしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の把握に努め本人らしい暮らしが続けられるように支援しています。	思いや意向の把握は入居時のアセスメントで利用者や家族の思いを聞き、日頃の会話や態度、様子から推測して把握している。思いや意向の把握が困難な場合は声かけし、表情等の反応を見て推測している。クリスマス会に何が食べたいか利用者の意向を聞き、ちらし寿司、煮つけ、てんぷら等が提供されている。ていびちが食べたいと要望する利用者には、ていびちを煮て提供し好評であった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族へ聞き取りを行い把握に努めるようにしています。また、入居後にも入居者様から話を聞いて把握するように心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの暮らし方を理解し入居者様の暮らしのリズムに合わせた支援ができるように心がけています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前や退院後、体調変化時等や定期的なモニタリングを行い本人の課題や必要なケアについて本人、家族・職員・医療関係者等と話し合い現状に即した介護計画を作成するようにしています。	介護計画は長期目標は1年、短期目標は6か月に設定され、計画作成担当者が利用者や家族、職員の意見を聞きながら作成している。モニタリングは3か月、または半年ごとに実施し、担当職員が報告を行い、計画作成担当者が摺合せをして評価している。センサーを利用している利用者で、転倒リスクを軽減する方策として、手すりバーの検討を計画に反映させた事例がある。入院等による随時の見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別支援経過や実行表、業務日誌等に記載した上で送りノート記載し情報を共有できるようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に合わせてその時々に必要なケアを行なうように支援しています。また、必要な支援があればその情報を御家族様へ提供し了承を得た上で導入したりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人を囲む地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮できるように支援するように努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人のかかりつけ医に受診を御家族様又は受診同行サービスを活用しながら行い入居者の情報を情報提供書で医師に提供する事で適切な医療が受けられるように支援しています。	利用者は全員馴染みのかかりつけ医を受診している。病院受診は基本、家族対応としている。家族が対応できない場合には、「病院付き添いサービス」を利用している。事業所からの「情報提供書」を介して、医師の指示や注意事項、経過などの受診情報は事業所に口頭で伝えている。健康診査は家族が支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で捉えた情報や気づきをすぐに看護師へ直接又は電話で報告を行い必要な指示を受けるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院になってしまった際は安心して治療が受けれるように入居者様の情報を病院関係者と共有し安全に治療が行えるように支援しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について詳しく説明した上で入居者様や御家族様の意思を入居時に確認し本人の望むケアが提供できるように支援するように努めています。また、体調悪化時にも再度確認し本人様、御家族様が望むケアを支援できるように努めています。	利用開始時に本人と家族に「看取りの指針」で説明し、「急変時の治療(心肺蘇生法)」に関する証明と同意書」で意思確認している。看護師資格を持つ管理者を中心に取り組み、昨年1人の看取りの実績がある。家族へは、生前の利用者の思い出を話すことで、家族の喪失感に寄り添っている。職員間では看取りのふり返りを行い、事業所での看取りケアの充実について話し合っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて急変時や事故発生時の対応方法について勉強やトレーニングを定期的に行なっている。	事故発生時・緊急時対応マニュアルを整備し、ヒヤリハット・事故報告書を作成している。利用者間の食事介助や車いすからずれ落ちそうになる等のヒヤリハット等や、転倒などの事故について、内容や場所、時間帯、回数などについて検討会議で原因を分析し、再発防止につなげている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に行なっている。	年2回避難訓練を行なっており避難の必要な状況になれば地域住人や近所に住む職員の手助けを受けれるようにしています。また、近くにある関連事業所と連携し協力体制を取るようになっています。感染症の予防や蔓延防止のための委員会の開催や指針の整備はまだ作成していないが研修や訓練は定期的に行なっている。	防災及び非常災害時対応マニュアルを整備し、昼夜想定避難誘導訓練と消火訓練を1階の小規模多機能型居宅介護と合同で年2回実施している。市主催の地震発生時を想定した「シェイクアウト訓練」に参加している。備蓄リストが作成され、水や米、缶詰等の食料品を3日分、カセットコンロやオムツ等が備蓄されている。今年8月の台風時に停電し、携帯電話の充電やミキサー食づくり等を関連事業所の応援で乗り越えている。設備点検も年2回実施している。業務継続計画は未作成である。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとり人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行うように心がけている。ただ、堅苦しい言葉だと入居者様にも緊張感を持たれてしまうので方言も組み込みながら親しみを持ちつつ丁寧な声かけを行うように心がけています。	利用者のプライドを傷つけない言葉かけで支援している。排泄の際には耳元での声かけや身振り手振りを交えて伝えている。トイレや浴室はドアやカーテンで二重に仕切り、羞恥心などに配慮している。「個人情報利用同意書」を徴取し、保護方針と利用目的を掲示している。個人台帳等は、目隠しシールを貼って施錠管理し、廃棄書類はシュレッダー処理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の前に着替えを入居者様とともに準備を行い本人の着たい服を準備したり入居者様が安心できる空間を一緒に作ったりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしその人のその日の状況に合わせたケアを行えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に一緒に着替えを準備する際にご本人様に選んでもらったりしています。また、離床後に鏡の前で髪型を整えて身だしなみを整えて活動に参加していただいています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを一緒に行ったり一緒に調理を行ったりしています。また、食事がすすまない入居者様へはふりかけ等を活用して気分を切り替えたりしています。	職員は、朝食と三食のご飯と汁物を作っている。昼・夕食の副菜は、1階法人の厨房で調理して提供されている。利用者は野菜の下ごしらえや食器洗いに参加している。テーブルにはお花を飾るなどして食事が楽しめるよう工夫している。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分排泄チェック表を活用し一人一人の状態を把握するように努めており必要に応じて工夫を行い水分を促すようにしています。排泄に関しても時間を把握し声かけを行い失禁せずトイレで排泄ができるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一旦は入居者様自身で口腔ケアを行っていただき必要に応じて職員による磨き直しを行い口腔環境の維持を図っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけを行いトイレ誘導を行なうことで失禁を減らすように心がけています。	「排尿・水分確認表」を活用し、利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見計らいトイレでの排泄を支援している。立位が困難な利用者は、二人介助でトイレ排泄を支援している。夜間は、テープ式おむつや尿取りパッドを調整して支援している。利用者の便秘対策として、水やリンゴ酢、ひじき、イカ墨汁などを提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分排泄チェック表を活用し一人一人の状態を把握するように努めており必要に応じて処方されたお薬を活用したり排便を促す体操や運動を行ったり水分を多めに摂取促したりしています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回予定しておりその都度声かけを行い拒否の場合は時間をあけて再度声かけを行ったり次の日にずらしたりして対応しています。	入浴は週3回の午前中とし、同性介助を基本としている。シャワーキャリーを使用して入浴する利用者が3名いる。入浴剤を入れた足湯を支援したり、童謡・民謡を流しながら支援をしている。着替えは、利用者が着たい服を選ぶように職員は支援している。好みのシャンプーやリンス、バスタオルなどの使用やシャワー浴の後に化粧水やクリームを使用する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	本人の状況に合わせてベッドに誘 導する時間を調整したり気持ちよ く眠れるように明るさや室温を調 節している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	介護職は看護師よりお薬の説明を 受け理解した上で服薬の支援を行 なうようにしています。	管理者は1週間分の薬をセットし、 当日分の薬は職員が配薬している。 多剤服用している利用者について は、医師と連携し、慎重に減薬を 実施している。他の利用者の薬を 飲ませてしまう誤薬が起きている。 服薬支援マニュアルが確認できな かった。	利用者の命にかかわる誤薬事故を 防ぐために、朝、昼、晩の食後薬、 及び就寝前薬の確認と準備、保管 方法、与薬方法、飲み込み確認、 飲み忘れのダブルチェック、「空袋 入れ」の確認などを含めた「服薬 支援マニュアル」の作成と見直し が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	入居者様それぞれが持つ能力を活 かした役割を見つけて日々の張り 合いを持たせられるように支援し ています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援 に努めている。また、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように支 援している	新型コロナウイルスの感染防止の観 点から5月までは外出もあまりで きていなかったが5類へ以降後は 御家族様の協力のもと本人の希 望するところへの外出ができるよ うに支援している。	新型コロナウイルス感染症対策を 行い、ドライブで花見を楽しんで いる。病院受診の帰りに家族と外 食をする利用者もいる。外出が困 難な利用者や車いすの利用者は、 2階のベランダで外気浴をし、気 分転換している。花木への水やり を日課にしている利用者もいる。 童謡や唱歌の歌詞帳を見ながら 歌う利用者の歌声がベランダから 聞こえている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	金銭管理は基本的に御家族様や成 年後見人が管理していますが数人 は小額をお財布に入れて持っている 方もいます。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和 6年 2月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合はいつでも好きな相手に電話ができるようにしています。また、年賀状を本人へ書いてもらったりもしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には入居者様が作成した季節の展示物や作品を並べたりゆったりとリラックスできるようにソファを置いていたりします。	居間兼食堂の壁には、利用者と職員が花紙をまるめて作った、七夕やハロウィン、クリスマスなど季節ごとの作品が飾られている。壁には、懐かしいカンカラ三線が飾られている。エレベーター正面に重要事項説明書や運営推進会議の会議録が掲示されている。掲示用の職員顔写真を作り直し中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファがあり好きな時間に座ってゆっくり過ごす事ができるようになっています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら配置等を行っています。また、安心して過ごせるように家族の写真や手紙、職員からのメッセージを飾ったりしています。	居室のベッドやエアコン、ナースコール等は事業所が備えている。紙おむつは、目につかないようにタンスに収納している。利用者は、家族写真や時計、カレンダー、メッセージカードを飾っている。観葉植物を置き、水やりをしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がひとりで自由に移動できるようにバリアフリーに設計されています。		